

資料NO.1

「不登校対策」と学校における 「居場所づくり」について

1

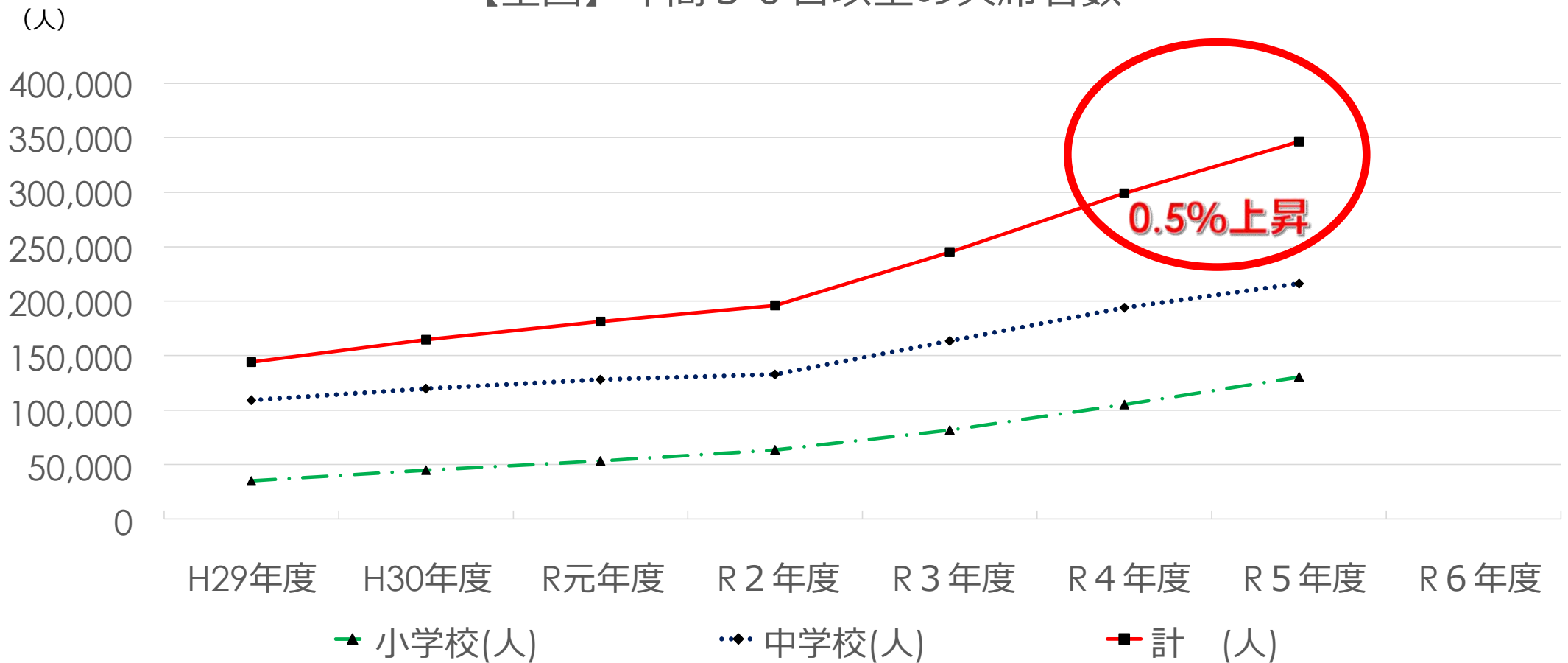
渋川市教育委員会学校教育課

Ⅰ 「小中学校における 不登校の状況」 について

I 「小中学校における不登校の状況」について

3

【全国】年間30日以上欠席者数

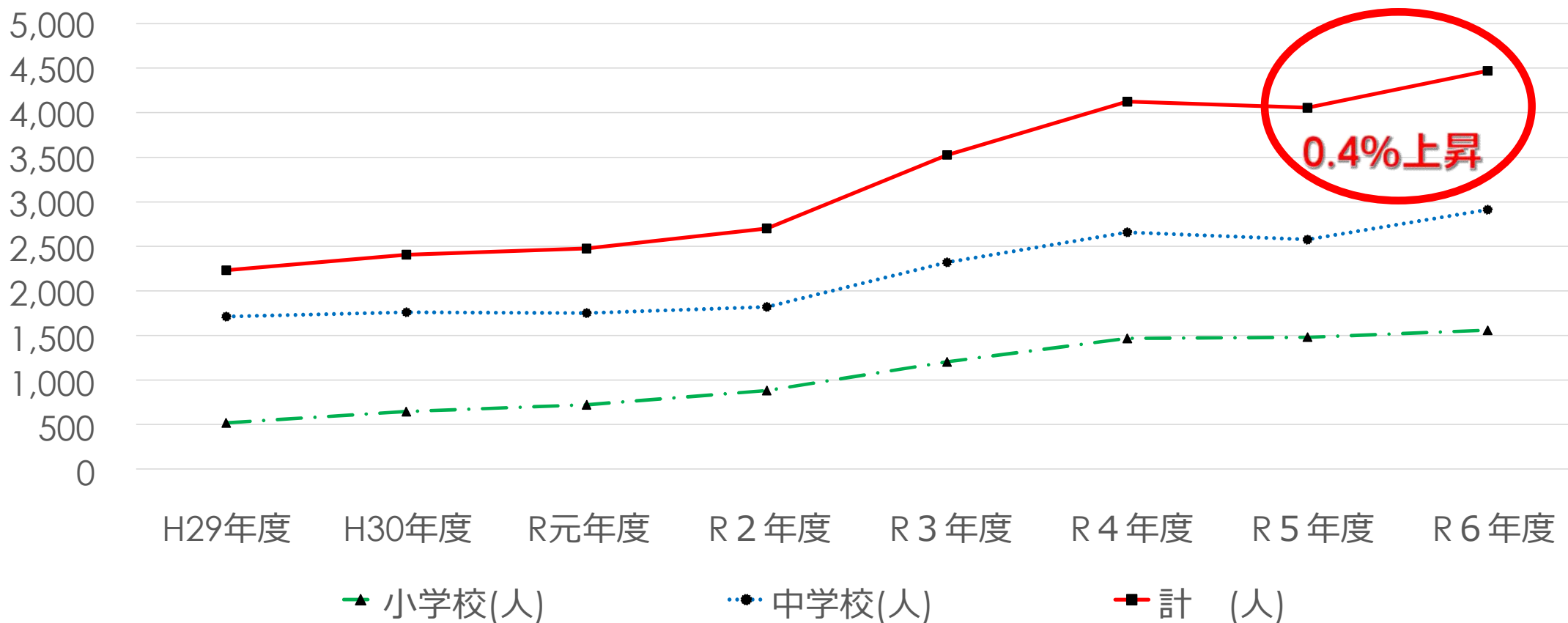


I 「小中学校における不登校の状況」について

4

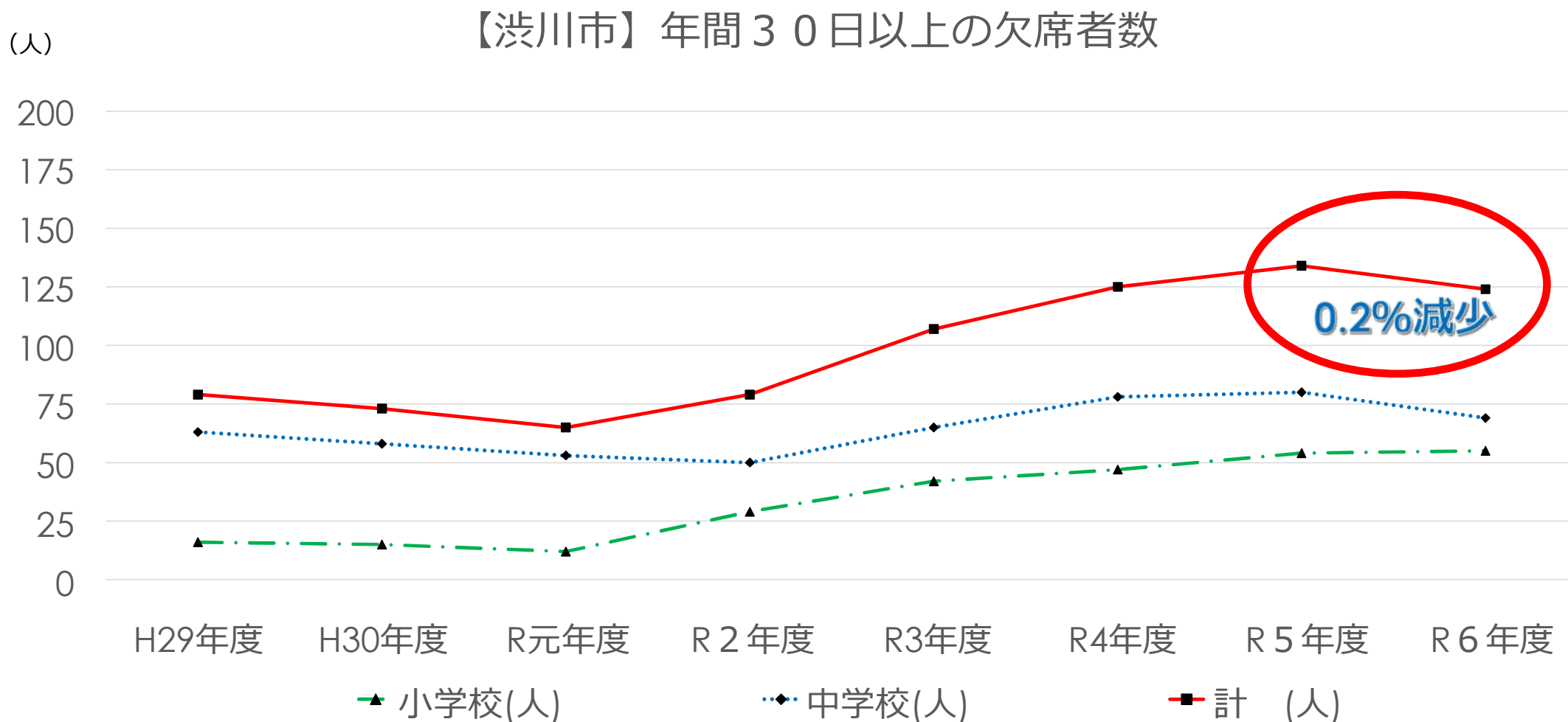
【群馬県】年間30日以上欠席者数

(人)



I 「小中学校における不登校の状況」について

5



2 「小中学校における 不登校の対策」について

渋川市の不登校支援

未然防止

温かな学級づくり

- ・先生が児童生徒を認め、ほめる
- ・1日1回声をかける等、気軽に話せる雰囲気づくり
- ・互いを認め合える学級風土の醸成
- ・居心地のよい教室環境の整備

学ぶ楽しさを味わえる授業づくり

- ・子どもが主体となる目標や課題の設定
- ・多様な見方や考え方ができる授業の実施
- ・対話的な学習、体験活動の充実

子供同士や子供と先生の絆づくり

- ・全ての児童生徒が活躍できる場の設定
- ・困ったときに相談しやすい関係づくり
- ・学級内のルールや役割の公平分担
- ・教職員の丁寧な言葉遣い
- ・人権を侵害する言動への毅然とした対応

家庭との連携

- ・電話連絡や教育相談、各種通信等を活用し、保護者との信頼関係の構築

幼小中の連携

- ・異校種間での情報交換や交流活動の充実

早期発見 変化への気づき

- ・児童生徒のこころのSOSのサインに気付く
- ・生活ノート、アンケート等の活用
- ・日頃の児童生徒の人間関係の把握

早期対応

- ・児童生徒の不安やトラブルへの即時対応
- ・不安な気持ちへの共感と困り感の把握
- ・欠席者への電話連絡、欠席が続いたら家庭訪問の実施

チーム学校

- ・職員間の情報共有、役割分担の明確化
- ・S・C等によるアセスメント
- ・アセスメントに基づいた支援計画（短期、中期、長期）の共有と支援記録の引継

つながりを切らない環境づくり

- ・登校場所や時間等自己決定の機会の設定
→ 成功体験の創出、自己肯定感の育成
- ・集団への所属感を高める(行事等の活用)
- ・別室、保健室、図書室等の活用
- ・一人一台端末を活用した交流

保護者支援

- ・定期的な連絡（前向きな情報提供）
- ・傾聴と保護者の困り感の共有
- ・教育支援センター「かけはし」での支援
- ・関係機関とつなぐ、コーディネート

別室・不登校支援

ウォームアップティーチャーによる支援と居場所づくり

すべての子に居場所
すべての先生が担任

こんな様子が見られることはありませんか？（児童生徒のSOSの例）

- | | |
|---|--|
| ☐ いつもと様子が違ったりぼんやりしたりしている | ☐ 休み明けや決まった曜日などに休む |
| ☐ 体調不良を訴え保健室に行くことが増えた | ☐ 字が小さくなったり暗い絵を描いたりする |
| ☐ 独りであることが多く、無口になった | ☐ イライラすることが多く、乱暴な事をする |

渋川市の不登校支援

不登校対策ウォームアップ事業

不登校あるいはその傾向にある児童生徒に対し、
子どもたち一人ひとりの心に寄り添った支援を行う

- 適応指導相談員(ウォームアップティーチャー)を配置
- 校内教育支援センターを設置

2 不登校対策について

適応指導相談員（ウォームアップティーチャー）
の配置

	小学校	中学校	合計
令和元年～	－	6校	6校
令和3年	1校	5校	6校
令和4年～	2校	6校	8校
令和6年～	4校	4校	8校

2 不登校対策について

適応指導相談員（ウォームアップティーチャー） の取組

- ①つながりを切らさない環境づくりのために、個に応じて家庭訪問を実施
- ②学びのニーズに合った計画づくりのサポート
- ③集団への所属感をもたせるための、学校生活のサポート

2 不登校対策について

適応指導相談員（ウォームアップティーチャー） の成果

- ①個々に寄り添い、コミュニケーションが増えることで安心感につながり、登校する児童生徒が増えた
- ②子供と一緒に立てた予定を実行できたことが自信になり、子供は学校生活や学習に意欲的になった
- ③学校生活のサポートを行うことで、不安の解消につながり、学校行事に参加することができた

2 不登校対策について

適応指導相談員（ウォームアップティーチャー） の課題

- ①勤務時間が短く、担任の先生と情報を共有する時間が合わないこともある
- ②全小中学校に配置されていないため、全小中学校に配置をできるようにしたい

3 「小中学校における 居場所づくり」について

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの設置

登校はできるが、教室に入れない児童生徒に対する支援を行う。自ら決めた学習を自分のペースで取り組めるよう支援する。

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの環境整備

- ①人目に配慮して様々な場所から入室できる環境の整備
- ②パーティション等でスペースを区切り、個々が安心できる個人スペースの確保
- ③タブレットを活用し、オンラインで授業が視聴できる環境の整備

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの環境



普段使用頻度の少ない教室や、空き教室を使用し、人目につかない配慮や、安心して登校できる環境をつくっています。

3 居場所づくりについて

近くに友だちがいると感じられる居場所づくり



校庭で活動する様子が見える
(活動が見えることで、行事
や学習に参加する意欲をもた
せるための工夫)

3 居場所づくりについて

近くに友だちがいると感じられる居場所づくり



→ クラスの予定がわかるよう、
学年通信や学校通信を掲示

→ 給食の献立表を掲示し、給食の
時間も楽しみになるような工夫

支援センターで給食を食べたり、休み時間
に友だちと交流したりすることも可能

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの成果

- ①校舎へ入ることに抵抗感を抱く児童生徒が、安心して学校に登校できるようになった。
- ②安心して学習できたり、友達と触れ合ったりできるようになった。
- ③在籍学級と同じ予定で学習や行動ができるため、学習に対して意欲的になった。

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの充実

支援センター専属の教員が、登校時から下校時まで不安を抱える子供の支援に携われる

令和6年：市内小中学校各1校（計2校）配置

令和7年：市内小中学校各1校（計2校）配置

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの取組

児童生徒にとって安心安全な居場所作り

→児童生徒ファーストで受容的・共感的な支援の実施

利用する児童生徒の学びのニーズに合った授業の導入

→オンライン授業の実施

タブレットの活用

→担任と児童生徒・保護者をつなぎ、一日の学習の様子や
頑張りを伝える

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの学習の様子



専属の先生がいつでも対応
学習指導も実施



教室の学習の様子を映し、
オンライン学習も指導・支援

3 居場所づくりについて

校内教育支援センター利用実績

小中学校校内教育支援センター利用人数は
175人（令和6年度）

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの成果

児童生徒にとって安全安心に感じる居場所づくり

→ 登校できなかった児童生徒が登校できるようになった

利用する児童生徒の学びのニーズに合った授業の導入

→ 意欲的に授業に参加するようになり、基礎学力の定着につながった

タブレットの活用

→ 児童生徒・保護者との連携強化を図ることで安心感につながった

3 居場所づくりについて

校内教育支援センターの成果

保護者にとって安全安心に感じる居場所作り

→タブレットを活用したことで学校の様子が保護者に伝わり、子どもの頑張りが伝わるようになった。

→**専属の職員が常時いるため**、家庭から学校へ安心して送り出してくれるようになった。

4 群馬県における昨年度の割合

30日以上の欠席者数 群馬県内小中学校
令和5年度 令和6年度

R5年度小学校88699人、中学校48241人あたりの不登校児童生徒数の割合

1.6%

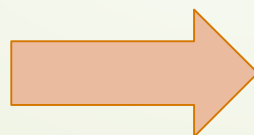
小学校



R6年度小学校87756人、中学校47664人あたりの不登校児童生徒数の割合

1.8%

中学校



5.3%

6.1%

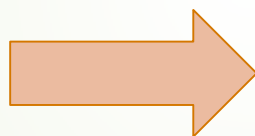
4 渋川市における昨年度の割合

30日以上の欠席者数 渋川市内小中学校
令和5年度 令和6年度

R5年度小学校3032人、中学校1652人あたりの不登校児童生徒数の割合

1.8%

小学校

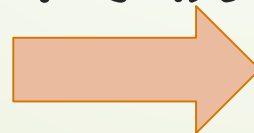


R6年度小学校2876人、中学校1648人あたりの不登校児童生徒数の割合

1.9%

4.8%

中学校



4.2%

4 渋川市における昨年度の成果

月6日以上の欠席者数 渋川市内小中学校

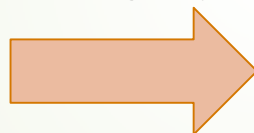
令和6年3月

令和7年3月

R5年度小学校3032人、中学校1652人あたりの月6日以上の欠席児童生徒数の割合

1.6%

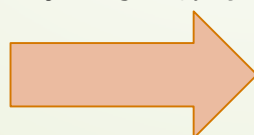
小学校



R6年度小学校2876人、中学校1648人あたりの月6日以上の欠席児童生徒数の割合

1.7%

中学校



3.8%

2.8%

5 学校以外の居場所について

教育支援センター「かけはし」教室

教育委員会直轄の不登校児童生徒の学び場

教育相談: 専門相談員 2 名

かけはし: 専任指導員 2 名

5 学校以外の居場所について

教育相談・教育支援センター「かけはし」教室

○相談件数（令和6年度）

来所：378件 電話：247件 訪問：10件

○通室者数

令和元年：18人 令和2年：17人

令和3年：19人 令和4年：10人

令和5年：9人 令和6年：7人

5 学校以外の居場所について

他機関との連携

群馬県総合教育センター（つなサポ）



6 終わりに 群馬県教育ビジョン

自立した学習者

自分で考えて、
自分で決めて、
自分で動き出す

第4期 群馬県教育振興基本計画
群馬県教育ビジョン
計画期間：2024年4月～2029年3月

最上位目標 自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて
一ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成一

自分も、みんなも、幸せになろう

— これからの時代を生きていく私たちに必要なこと —

自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

人は、誰しも、生まれついて自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力を持っている。

- 一人一人が、自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す「自律した学習者」であること
- 子どもと大人が、お互いを主体として認め合い、協力しながら社会を作っていくこと
- 地域と、学校と、家庭が、協力して学びの場を作り、共に学び続けていくこと

現状の課題

- 私たちの（子どもたちの）主体性や社会参画への意識が弱いとされるのは何故か？
- 良かれとの思いから、失敗しないように先回りして考えすぎる教育が、生まれつき持っていた自ら成長する力（エージェンシー）を損なっていたのではないか？
- これまで以上に先行きが不透明とされる時代に必要な力は、どんなものなのか？

2024年3月 群馬県教育委員会

波川市が目指す授業像

学ぶ楽しさを味わえる授業

「教師が教え込む」授業から「**子供が自ら学ぶ**」授業へ

主体的・対話的で深い学び

子供たち自ら「**〇〇したい！**」が生まれる授業へ

主語は子供の授業作り

- ・目ざす子供の姿を明確に（単元を見通した**ゴールの設定**）
- ・知的に魅力がある学習課題の設定
- ・明確なねらいの提示

もっと調べてみたい！
どうして〇〇に
なったのだろう？
新しい目標を
立ててみよう！

- ・子供の疑問、生活との関わりから生まれる課題の設定（家庭学習や次時への見通し）
- ・子供たちのがんばりを認める**賞賛**

- ・新たな問いをもつ
- ・学ぶ楽しさを実感する

学び続ける子供たち

- ・解決への見通しをもつ
- ・自分の考えをもつ

- ・対話を通して自分の考えを広げ深める

- ・学習を振り返る
- ・自分の学びを自覚し、変容に気付く

- ・日常生活との関連付け
- ・過去の自分との比較

わかった！できた！
楽しい！
こうやったからうまく
いったんだ。

どうしてうまくいかなかったの
かな？もう一度振り返ろう。

考えてみたい！
やってみよう！
自分は…と思うけど、
みんなはどうかな？

- ・必要感のある**対話**
- ・個別の**指導・支援**
- ・体験学習の重視

そんな考え方が
あったのか…
〇〇さんと比べると…
つまり…なんだね！

- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・ICTの効果的な活用
- ・指導と評価の一体化

心身ともに健康で運動好きな児童生徒の育成

学校・家庭・地域の連携

34

養護 教諭

健康の保持増進

子どもの望ましい成長について

学校・家庭・地域で連携

- ・身体能力の向上と肥満の軽減
- ・子どもの健康的な運動習慣を家庭と共有、啓発
- ・定期健康診断の実施と家庭と連携した事後措置
- ・けがの予防と健康管理、心の健康づくり活動の充実
- ・健康相談による状態の把握と対応（歯科指導等）

体育・ 保健体育 教諭

楽しく運動ができる指導の工夫

体育担当を核とした指導の改善と充実

- ・楽しく安全に取り組める環境の準備・確認
- ・体づくり運動の充実
- ・業前、業間で運動に親しむ環境づくり
- ・体育学習カードの情報共有

小学校 中学校

基本的生活習慣の定着

子どもの健康について学校・家庭・地域で連携

- ・学校保健委員会・地域学校保健委員会の実施
- ・家庭と学校、地域、主治医（学校医）との連携
- ・肥満児への生活指導
- ・生活習慣の改善、メディアコントロールの習慣化
- ・食と運動に関わる情報提供（栄養バランス等）
- ・生活アンケートの実施

栄養教諭 等

食育の充実

運動と健康に係る食育について

学校・家庭・地域で連携

- ・各学校での給食指導・食生活指導
- ・学校・家庭への食育についての情報提供
- ・食物アレルギー対応食の提供
- ・毎日の給食写真やコメント掲載（市HP）
- ・調理場の施設見学や試食会開催

各種 団体

イベント等啓発・広報

情報共有を通した

学校・家庭・地域の連携

- ・スポーツ少年団等の広報の充実
- ・地域スポーツ行事、スポーツイベント等の情報提供
- ・スポーツ指導者派遣

自治会 子ども会 育成会

子どもの活動を援助

子どもが地域とふれあう機会を生み出す保護者と地域の連携

- ・放課後児童クラブでの外遊び活動の啓発
- ・昔遊び体験会の実施・協力
- ・ラジオ体操会の推進
- ・地域スポーツ行事、スポーツイベント等の参加及び啓発

部活動指導の工夫

学校部活動・地域クラブ等の連携

- ・部活動指導員・外部指導者の活用
- ・合同練習会の活用
- ・地域クラブとの強化練習会や交流戦への参加
- ・地域クラブの中体連二大会参加と情報共有
- ・スポーツ協会、スポーツクラブ、スポーツ少年団等、各種スポーツ競技団体との連携、情報共有

地域

子どもと一緒に 体を動かす機会

学校・地域活動への保護者の参加

- ・地域の運動会、運動行事等への保護者の参加
- ・保健体育での参加型学習参観等の実施

保護者 PTA

心とからだの
元気UP！

渋川市の不登校支援

未然防止



温かな学級づくり

- ・先生が児童生徒を認め、ほめる
- ・1日1回声をかける等、気軽に話せる雰囲気づくり
- ・互いを認め合える学級風土の醸成
- ・居心地のよい教室環境の整備

学ぶ楽しさを味わえる授業づくり

- ・子どもが主体となる目標や課題の設定
- ・多様な見方や考え方ができる授業の実施
- ・対話的な学習、体験活動の充実

子供同士や子供と先生の絆づくり

- ・全ての児童生徒が活躍できる場の設定
- ・困ったときに相談しやすい関係づくり
- ・学級内のルールへの定着と役割の公平分担
- ・教職員の丁寧な言葉遣い
- ・人権を侵害する言動への毅然とした対応

家庭との連携

- ・電話連絡や教育相談、各種通信等を活用し、保護者との信頼関係の構築



幼小中の連携

- ・異校種間での情報交換や交流活動の充実

こんな様子が見られることはありませんか？（児童生徒のSOSの例）

- | | |
|---|--|
| ☐ いつもと様子が違ったりぼんやりしたりしている | ☐ 休み明けや決まった曜日などに休む |
| ☐ 体調不良を訴え保健室に行くことが増えた | ☐ 字が小さくなったり暗い絵を描いたりする |
| ☐ 独りでいることが多く、無口になった | ☐ イライラすることが多く、乱暴な事をする |

早期発見 変化への気づき

- ・児童生徒のこころのSOSのサインに気付く
- ・生活ノート、アンケート等の活用
- ・日頃の児童生徒の人間関係の把握



初期対応

早期対応

- ・児童生徒の不安やトラブルへの即時対応
- ・不安な気持ちへの共感と困り感の把握
- ・欠席者への電話連絡、欠席が続いたら家庭訪問の実施



チーム学校

- ・職員間の情報共有、役割分担の明確化
- ・S・C等によるアセスメント
- ・アセスメントに基づいた支援計画（短期、中期、長期）の共有と支援記録の引継

つながりを切らさない環境づくり

- ・登校場所や時間等自己決定の機会の設定
→ 成功体験の創出、自己肯定感の育成
- ・集団への所属感を高める（行事等の活用）
- ・別室、保健室、図書室等の活用
- ・一人一台端末を活用した交流

保護者支援

- ・定期的な連絡（前向きな情報提供）
- ・傾聴と保護者の困り感の共有
- ・教育支援センター「かけはし」での支援
- ・関係機関とつなぐ、コーディネート

別室・不登校支援

渋川市教育委員会

すべての子に居場所
すべての先生が担任

